

◇杉並三田会創立 25 周年御祝と杉並三田会について

- ・杉並三田会が創立 25 周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。これまで、この三田会を育て発展させてこられた歴代の会長、会員の皆様そして現在の代表世話人服部様の皆様のご努力に対して感謝を申し上げ、また敬意を表し、そして心からお喜びを申し上げます。

また、今、ご紹介がありました多くの近隣の三田会、そして杉並稲門会の皆様にもお越し頂き、このようににぎやかに三田会が開催されることについて、私は大変うれしく感謝の思いで一杯でございます。

- ・25 年前、ちょうど SFC 湘南藤沢キャンパスが誕生して、その時に湘南藤沢中・高等学校が開学しました。石川塾長の時代でした。それから 25 年経って、新しくできた横浜初等部が 2019 年に初めての卒業生を送り出しますが、この卒業生全員が藤沢中・高校にまいますので、慶應義塾として初めての小、中、高一貫教育が完成するということになります。
- ・さて、杉並三田会、27 もの分科会をお持ちということで、この会の始まる前、活動ぶりを示すパネルを拝見しましたが、これほど多くの分科会活動があるのは珍しいと思います。その中でも、「知的好奇心の会」とか「交友（遊）会」とか「わしゅの会」など大変珍しい名前の分科会があり、まさに「よく学び、良く遊べ」を実践されていることを感じました。

◇早慶戦への思い

- ・今秋の早慶戦はうれしい結果となりました。稲門会の皆様がいるところでこの話題は恐縮ですが、語らずにはいられません。この 20 年間、大学野球が大好きで早慶戦は毎シーズン観戦しています。今回は土曜日が雨の中で 2 対 1 の接戦を勝利し、日曜日は雨で中止、月曜日は強風と寒さの中、皆が応援しやっとな勝利しました。
- ・早慶戦でいつも感じますことは、慶應義塾は塾生で持っているということです。選手は勿論のこと、スタンドで声をからしている応援指導部、試合終了後のスタンドの清掃や日比谷公園の見廻りをする慶早戦支援会、応援の盛り上げやイベント担当の放送研究会、1930 年製パレード車を運転する自動車部、そしてパレード車故障時の押し役の相撲部など、塾生みんなの力で早慶戦を盛り上げ楽しんで慶應義塾がにぎやかに発展していくのだ、という思いであります。

◇慶應義塾新執行部体制での事業について

- ・この 5 月 29 日に現在の法人執行部が発足して 6 か月経ちました。7 月号の三田評

論で清家前塾長と新旧塾長対談しましたが、継続と発展が執行部の使命と思っています。

・建物で申しますと3つあります。

- ① 来春に「信濃町に新病院棟」が竣工され、先端的な世界に冠たる慶応医学の拠点となります。
- ② 「日吉記念館」は、昭和33年の創立100周年に建てられたものです。この秋の連合三田会を最後に取り壊され、建て替え工事をして2020年の東京オリンピックの年に竣工します。この年に、慶應義塾は英国の選手団を受け入れ、様々なコラボレーションをしようという英国オリンピック協会と協定を結んでいます。
- ③ まだ計画段階ですが、直ぐにも着工したいと思っているのが「博物館の創設」です。慶應義塾はこれだけ世界的レベルの総合大学でありながら159年間博物館を有していなかった。これを何とかしたいということで、近いうち、出来れば東京オリンピックの年に向けて、新しいタイプのIT技術を駆使して教育と研究の拠点となる発信型の博物館を創設したいと願っています。

また、今後の慶應義塾の建物には木造をふんだんに使っていききたいというのが私の願いです。今日は南三陸町から、南三陸森林組合の組合長として、また塾員としてお世話になっております佐藤久一郎さんがお出で頂いています。南三陸は被害を受けて佐藤さん自身も大変な目に遭われましたが、復興する中で塾生がボランティア活動に行ったり植林したりする際にお世話になっております。

また、杉並三田会も、南三陸プロジェクトを支援され、植林活動もされているとのことですが、各地の学校林のなかで南三陸町の木材が、一番樹齢が高く既に使える段階と伺っています。慶應義塾が率先して学校林の木を、これからの義塾の施設に使うことも考えたいと思っております。

◇慶應義塾という学校について

こうした教育、研究の色々な試みを進めるためには資金と人材が必要になります。慶應義塾大学は私立大学であって、本来的に言えばオーナーはおりません。

先ほど服部さんに、この杉並三田会は会長と言わずに代表世話人とのことで、その由来を伺ったところ、世話係ですとのことでした。私はすぐに思い出しました。かつて、福沢諭吉先生が私財をすべて慶應義塾に寄贈して維持会によって成り立つという時に、今後自分は檀家から委託されて寺を守る住職のつもりで慶應義塾を世話していきたい、と仰っていました。オーナーではない、民間の有志が色々なものを持ち寄って、そして学校を作るという発想、これを杉並三田会は体現していますし、今後、慶應義塾もこの精神を進めていくものであります。

慶應義塾の塾長は理事長であり学長を兼ねるということになっています。大学の教学に責任を負うと同時に、一貫教育棟、病院や研究所、色々なものを入れた法人

慶應義塾の経営の責任をお預かりしている立場でありますので、私もそういうつもりで慶應義塾の教育、研究、医療の発展に力を尽くしたいと思っておりますが、何といても慶應義塾は卒業生の皆さんのお力で成り立っている学校でございます。

卒業 25 年、50 年に自分の子供ではない後輩のために皆さんが集まって、また多額の御寄付を頂戴している、それが成り立つ学校でございます。

これからもどうぞご支援を賜わればと思う次第です。

◇最後に

福沢諭吉創業者は「世の中にて最も大切なものは、人と人との交わり、付き合いであり、是即ち一つの学問なり」という言葉を遺しております。

この杉並三田会のホームページを拝見しますと、「世代を超えた末永い交友を築く場」、「生涯学習を体現する場」と書かれています。この福沢先生由来の慶應義塾の教育理念を体現する杉並三田会が今後、30 年、50 年、100 年と、さらに交友の輪を広げて発展されることを期待し、また信じまして私の御祝の言葉とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。